

海域の概要

本湾は、尾鷲市の南端に位置し、三方を山に囲まれ、南東には熊野灘が広がります。湾内では、ヒラメの放流などが行われています。



Specification

諸元

湾口幅：2.82 km

面積：12.6 km²

湾内最大水深：8.2 m

湾口最大水深：8.2 m

閉鎖度指標：1.26

備考：なし

Location

範囲または位置

三重県尾鷲市カナトコ鼻と熊野市神須ノ鼻を結ぶ線及び陸岸により囲まれた海域。



環境

賀田湾は奥行き 5 km の海湾で、中央部水深 50m と深いため、内湾というより外海に近い環境変動を呈します。湾口を太平洋に開いている湾で、沖合には黒潮が流れる太平洋型気候の温暖多湿の海域です。湾内には、賀田町に古川、三木里町に 2 川が流入しています。

平成 2 年～11 年の DO の平年値は 6.6～7.8 ppm です。

自然

賀田湾は三方を山々に囲まれ、東側に熊野灘が広がっています。真珠筏や養殖の小割が浮かぶ、穏やかで美しい海で、吉野熊野国立公園に指定されています。

湾口付近の岩礁部にはマクサやホンダワラ類の藻場が分布し、湾奥の入り江はダイビングスポットとなっていて、ソフトコーラルが群生しており、魚群も豊富です。

湾北沿岸の三木崎遊歩道は、尾鷲市賀田湾の入り口にある「三木崎灯台」までの遊歩道です。この灯台は昭和 3 年から、航海する船の目標として重要な役割を果たしてきました。2 月～3 月にかけては遊歩道一帯はヤブツバキ（尾鷲市の花）でいっぱいになり、とてもきれいです。

東紀州の気候は、九州南東部や南四国と同じ南海型で、大台山系や熊野灘を流れる黒潮のおかげで、冬の冷え込みも少なく、夏は涼しいです。年間雨量は、屋久島に次ぐ、4,000mm に達し、地元の人が「ザンザカ降り」と呼んでいる大粒の雨も自慢の一つです。この温暖な気候と雨のおかげでヒノキやスギの美林を育てています。



ヤブツバキ

文化歴史

賀田湾は賀田町、曾根町、梶賀町が面しています。梶賀町は、水産業と特に関わり合いが深く、定置漁業の町です。鯨突きという漁労習俗をそのまま再現する「はらそ祭」があります。曾根町には縄文時代の土器・石器が出土し、1,000 年以上たっている杉の大木がある「飛鳥神社」があります。

産業

定置網漁業には、秋から春にかけて操業される大型のブリ定置網と周年操業させる雑魚定置網、イワシ網、それに共同漁業権内で操業される小型定置網があります。

ブリ定置網の歴史は古く、明治 32 年九木浦にて大敷網が操業されたのが始まりです。



定置網